



# 日本を退屈から救う 「演劇的事件」が開幕!

俳優に徹する野田秀樹を、三谷幸喜が作・演出の立場で料理する。

実力と華を兼ね備えたキャスト陣とともに。

『おのれナポレオン』はそんな、鉄板ともいべき好条件ぞろいの舞台だ。

立場やキャリアに関係なく、火花を散らすであろう稽古の時間に先駆けた幕開け。

制作発表を裏側からのぞいてみた。

演劇が「事件」だったのは過去の話、という先入観に待ったをかけたのは『おのれナポレオン』制作のニュースだった。第一報は昨年晩秋。名実共に日本の演劇界を牽引してきた野田秀樹と三谷幸喜が、共同して舞台を創るといふ。しかも劇作・演出を三谷が手がけ、野田は初めて他者の作品で俳優に徹するというチャレンジも。昨今の日本演劇界に漂う閉塞感を吹き飛ばす、「事件たり得る演劇」と言うべき企画。しかも題材はセントヘレナ島に流刑になった、晩年のナポレオンだといふ。

年が明けた1月下旬、主要メンバーがそろって『おのれナポレオン』制作発表が行われた。場所は主催・東京芸術劇場コンサートホールのエントランス。格式のあるホテルのような雰囲気は、企画の大きさと華やかさをいや増す。このレポートの始まりは少し遡り、登壇者たちの楽屋風景から始めたい。

三々五々楽屋入りしていた登壇者たちが、最初に顔を合わせたのは開始20分程前。会見進行の説明を受けるためだ。ナポレオン役の野田、セントヘレナ島のアドソン・ロウ総督役の内野聖陽、ナポレオンに近しく仕えたモンロン伯爵役の山本耕史、そして作・演出の三谷らスーツ、ジャケットでキメた男性陣のなか、モンロン伯爵夫人アルヴィーヌ役・天海祐希のワインレッドのドレスが華を添える。

場慣れた5人はサラリと打ち合わせを終えると、そのまま互いの近況に関するお喋りに。そばに椅子があるにも関わらず立ち話を続けたのは、会見に対する多少の興奮の現れだろうか。先回りの会見場の空気には、控え室とはまた違った熱気と緊張が満ちていた。集まった100人余の取材者たちの誰もが、少しでも多く「事件」の概要をつかもうと待ち構えているのだ。

やがて時間となりTBS山内アナウンサーの進行で会見が始まった。まずは主催者の挨拶。続いて作・演出の三谷が作品について説明をし、キャストが野田、天海、山本、内野の順で抱負と演じる役についてを語っていく。なんと戯曲は既に3分の1ほどあり、キャストにも渡されているのだといふ。

「大河ドラマ『新選組!』で野田さんに演じていただいた勝海舟を見て、俳優としての野田さんに魅了されました。今回はその俳優の部分をお預けいただけるとのことで、歴史上の人物を東西の別なく当たり、みつけたのがナポレオン。小じんまりしててせっかち、よく食べこぼすところが共通点かな」と、語り出しから笑いを取る三谷に対し、「芸術監督就任直後から三年越しで温めていた企画。戯曲に描かれたナポレオンのあまりのイヤな奴ぶりに、絶対にあて書きで、自分もこう思っていたのかと周囲に申し訳なく思った」と野田も小気味よく返す。

三谷と野田、過去に両方の演出を受けている天海は「その経験があるからこそできることを追求したい」と語り、登壇者最年少の山本は「今自分がここにいる幸せと光栄を噛み締めています」という謙虚な切り出しとは裏腹に「でもいただいた戯曲はまだ読んでいなくて」と続け、会場を沸かせる。「三谷さん、野田さんのお二人と関わる現場に期待が募る」と言う内野の熱のこもった言葉は、俳優の総意を代弁するかのようだ。記者からも続々と質問が飛び交い、写真撮影を含む1時間はあっという間に過ぎていった。

会見後、小休止のあと5人はテレビ用のコメント撮りのため別室へ。「自由にお喋りしてください」というディレクター。トークは得意なはずと、山本に口火を切るよう迫る先輩たち。カメラが回ると同時に山本は滑らかに話を始めるが、先輩たちは一人だけ台本を読んで来なかったことをネタにチョコチョコとイジる。

「全裸のラブシーンを入れる」という三谷の爆弾発言に「(野田さんに)覆いかぶさってやる!」と返す天海、「今まで稽古中に気軽にせりふを変えていたけど、覚えたものを変えられるのはイヤだよ」と妙な反省をする野田。「野田さんと三谷さんが喧嘩になったらどっちにつく?」と楽しげに振る内野。カメラの存在など関係なく息ピッタリで語り合う5人には、既にカンパニーとしての絆と創作に向けた高い意識が感じられる。2ヶ月余り後、5人がそれぞれに新たな魅力を開花させるであろう舞台への期待が、さらに募る時間だった。

取材・構成:尾上さら



野田秀樹



天海祐希



山本耕史



内野聖陽



三谷幸喜

## 「おのれナポレオン」

13年4月9日[火]~5月12日[日]  
(4月6日・7日プレビュー公演あり) プレイハウス

作・演出:三谷幸喜

出演: 野田秀樹/天海祐希  
山本耕史/浅利陽介/今井朋彦

内野聖陽



チケット  
当日券あり  
お問合せ  
東京芸術劇場ボックスオフィス  
0570-010-296  
(休館日を除く10:00~19:00)

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)/TBS